



東亜同文書院大学記念センター事業の 外部評価の概要について

東亜同文書院大学記念センター 山口恵里子
豊橋研究支援課

愛知大学東亜同文書院大学記念センターでは、2006年度より「展示室のリニューアル」「収蔵史資料の全国各地での啓蒙的広報展示会・講演会」「書院卒業生寄贈図書・支那雑誌などのデータベース化」「活動研究成果年報・大学史研究報・ニュースレター等の出版」「地域広報としての友の会」の5つの事業を柱に活動を進めてきました。今回、こうしたオープン・リサーチ・センター事業活動をマスコミ、経済界、美術博物館関係、友の会メンバー他の方々に以下の印刷物等を送付して事業評価お願いしました。

なお、事業評価の内容は「私立大学学術研究高度化推進事業」に係る中間評価（平成20年度分）に伴う研究進捗状況報告書に盛り込み提出しました。

〈印刷物等〉

1. オープン・リサーチ・センター年報 創刊号
2. オープン・リサーチ・センター年報 第2号
3. 愛知大学史研究 創刊号
4. 愛知大学史研究 第2号
5. 研究報 創刊号
6. 研究報 第2号
7. 研究報 第3号
8. 新聞掲載記事

愛知大学東亜同文書院大学記念センター 事業評価の内容

【1】展示室のリニューアル

＜評価できる点＞

- A 全体としてだいぶ改善されている。各種資料が充実してきており、とりわけタッチパネルがよい。写真と説明が丁寧になり、音声によるガイダンスもよい。朝日新聞などの関係者を案内した時も評判がよく、もっと広く周知してほしいともいわれた。
- B (1) 現存する資料を中心に、大学の概要をきちんと紹介できている施設である。今後はもっとテーマ別に資料収集や展示の幅を広げていけると思う。
(2) ポストドクター、リサーチアシスタント等研究者の活動を広げる場ができたことは大きく評価できる点である。
(3) 外部に対してきちんと説明できる施設ができたことが大きい。
- C (1) タッチパネルでDVDや展示で紹介できなかった史料等をコンピューターグラフィックを使いながら情報を検索するシステムを取り入れた点が良い。
(2) 中央の美術館や博物館が使用している音声ガイドを積極的に取り入れ、日本語・中国語・英語で聞くことができる点もよい。
- D 同文書院の中国関係の資料も面白く、孫文との

かかわりなど貴重なものである。

E 見て聴いてふれる楽しみを感じるリニューアルである。プレゼンテーションは格段にアップした。リサーチ・センターを「オープン」にする点で、大学全体の熱意が感じられる。

F (1) 展示室の順路変更により、さらに分かりやすくなった。

(2) 音声ガイダンスに英語と中国語を加え、利用しやすくなった。

G センター内、とくに本間喜一記念室については、たくさんの寄贈された遺品の中から限られたスペースの展示のために非常に精選されている。展示室内の内装、照明、ケースなども落ち着いて、昭和の雰囲気をかもし出していて、違和感がない。本間学長の人柄までが、感じられる展示、空間ですばらしい。

H よく整理されており、以前より分かりやすく展示してある。

I (1) 近代的な技術を使って、参観者の便宜を第一とする説明方法を積極的に取り入れて、タッチパネル・音声ガイド・DVDなどを設置した事は、参観者の関心と興味を一段と高める効果があり、評価出来る。

(2) 貴重な資料等の永久的保存を図るためにレプリカによる展示を進めている事は、将来を見据えて手間ひまと経費をかけているのであって、目には見えない所での努力が尊いものである。

J 今迄の展示室は品物が並べてありますと言う室ばかりだったが、リニューアルによって品々に血が流れ品物に生命が宿ったように見え、見学者には展示品から声を掛けられるような気がする。お金と時間があるだけでは人の心を打つものは生まれてない。展示に携わる先生方の熱き念（オモイ）がこの様なすばらしい展示室に変化出来た。

音声ガイドがすばらしい。

K 愛知大学の創立過程を提示した意義は大きい。縁あって愛大に学ぶ学生と教職員が展示室から得るものは、学び方によれば人生観を変えるほどになる。

東亜同文書院設立当時の時代にあって、近衛篤磨公ほか先覚の日本を思い、中国を思う志を知り、書院の実績や書院生の活躍を知れば、感得計り知れず、日常の勉学や職務にも迫力を与えることができる。

L オープン・リサーチ・センター年報2007年度版の「大学記念館の改修工事」及び「記念館にDVD・音声ガイダンス・タッチパネルのナレーションシステム導入」の各部に詳細報告済みであり、成果はよく出来ている。

M 東亜同文書院大学と辛亥革命、特に孫文との係わりを示す展示はきわめて貴重なものとの感を深めた。

愛知大学の展示を記念館の東側に集約・充実によって、愛大五十年の歴史を際立てることになった。特に大学創立以来の功労者である本間喜一先生の展示は圧巻である。

見学者用の音声ガイド、またタッチパネルの設置はまことに好都合である。

<改善が必要と思われる点>

A スペースの関係もあるが、同文書院の所蔵品の展示およびネット上の公開を促進すべきなのではないか。特にデータベース化されたものの公開に努める必要がある。

B 多くの方にみてもらい、感想や評価を集めて次の改善につなげていく必要がある。

書院展示室と大学史展示室の差をなくす（パネル・明るさ・導線）工夫が必要。

以前の大学史展示室にあった「学生生活」の資料を展示していけると良い。今後の予算化と計画的な改善を。

C 来館者を短時間で効率よく見学してもらうための導線が必要。見学順路番号を付した矢印を入れた案内板（手作りでもOK）を展示室前

- へ置く。併せて愛知大学探検マップのように館内案内図・見学順路矢印を印刷されたものを用意して見学者の利便に供したらどうか。
- D 愛知大学創設期の指導的人物として本間先生の資料展は当然として、その他小岩井先生など同文書院から愛知大学へ転換する過程で役割を果たした方々の資料展示もあればよい。また、創設以後の中国とのかかわりを記録する資料の展示も考えられる。
- E 学外の人々への、いわゆる集客アピールを考えたイベント（娯楽化するのではなくて）を企画するのもよい。
- F 大旅行のスタイルの実物展示が望ましい。
- J 後に続く大学関係者が先生方の想いを忘れない事を祈る。
- H (1) 学生は入学年次に、教職員は早期に、展示室の見学閲覧を義務化すれば、その後の活動意欲促進に効果的になる。
 (2) 談話コーナー、談話室なども設けて、閲覧の感想など語り合うのも効果的になる。
 (3) 記念館の隣接屋外に、記念碑（東亜同文書院大学から愛知大学へ（仮称））を建立すればさらに記念館の重みが増す。書院の草創から愛知大学の現在までを、簡潔な名文で刻めばと期待したい。
- I 1階及び2階になお空室があるが、今後同文書院関係資料を更に広く展示できるように活用されたい。
- 【Ⅱ】収蔵史料の全国各地での啓蒙的広報展示会・講演会
- <評価できる点>
- A 孫文・山田兄弟が活躍していた日本のゆかりの地をはじめ、積極的に啓蒙的広報展示会・講演会の開催に敬意を表したい。本物は説得力が違うので、これらの種撒きの活動は必ず実を結ぶ時が来ると思われる。
- B 開催地区にあわせた企画内容と講演者の選定で
- あり、関係者の努力が詰まった展示会である。また、大学卒業生に対し大学を見直すきっかけを作る大きな機会を作った。受験世代を子供にもつ40前後の世代にもっとアピールできるようにすることで、大学に直接的なメリットも与えることができる。
- C 遠隔地にもかかわらず東亜同文書院の縁の地・弘前などで広く史料の公開が行われた事はよい。
- D 積極的な活動、敬意を表したい。
- E 豊橋から全国への発信として、大変でしょうが画期的なことである。展示会と共に収集されるであろう情報を記念センター等に有効にフィードバックすればさらによくなるだろう。
- F 豊橋・名古屋だけでなく、全国の主要都市に出かけて展示したことは大いに意義がある。書院のシステムが全国都道府県の派遣であったことを想起したい。
- G 愛知大学の歴史上に登上する人々の業績をわかりやすく、また、その人物の関連した土地（例－山田兄弟－弘前）での展示講演は大学ばかりでなく、グローバルな視点から、社会教育という意味でも、非常に意義のある事である。
- H 同文書院は日本全国からの学生の集まりであったので、全国的なPR活動は大変有意義である。
- I 同文書院記念センターに収蔵されている史資料は、中国清末から中華民国、中華人民共和国へと移行する過程の、中国の実情と日本人がそれに如何にかかわったかの資料である。この当時の中国の実態は当時の日本人が知らなかったばかりでなく今日の日本人も理解してはいない。対戦中に多くの日本人が大陸に従軍したとは言え、中国の実態を理解したとは言えない。今日、双方にある誤解をとく為にも、展示会を数多く開く事は必要である。今後、日本国内だけでなく中国国内に於いても開く事が出来るならば、大変良い結果を生むと思う。

J 現在はテレビ、パソコンで手軽に知識を得られる時代だが、やはり各地で広報活動をする事によりお客一人一人が受け取る意味が違って来る。また来場者の意見も聞けるから大変に良いことだ。

K 全国から選抜された戦前書院生は夏季休暇を利用し、母校で書院のアピールの講演を自発的に実施し、後輩に宣伝した。それが各都道府県県費生の質や人数に影響した。従って今後は全国に及ぶことが望ましい。

L 愛知大学より東亜同文書院の方が、名前が知られている面もあり（国内外とも）、書院資料展示は愛知大学の名声を高め知らしめる効果は大きい。

各地での展示は、ご当地偉人（弘前：山田兄弟、福岡：大内、名古屋：荒尾）達の顕彰を通して、該当各地の人達に歴史を学び、誇りを感じ得る機会を提供している。教育関係者・郷土史家、報道関係への感化も大きい。

M 横浜では図書館総合展の中で唯一の大学関係展示であったので、一般の注目を惹き、講演会も超満員であった。東京は新築ビル37階での展示と講演会であったので、書院への関心と注目度が更に高まった。弘前では孫文と特別の関係にある山田兄弟に関する展示と講演が注目され、特に貞昌寺にある孫文と蒋介石によって建てられた山田兄弟の碑が異彩を放った。

N 同文書院の関係者が辛亥革命を援助したことを、日本人のみならず中国人に知ってもらう機会ともなれば、日中友好上きわめて有意義である。

<改善が必要と思われる点>

A そのうち、愛知以外で展開してきた各種の活動の映像記録のエッセンスを大学内にフィードバックさせ、教育・研究活動に活かしたらよい。

B 開催地区での広報、周知、計画的な準備を。そのためには地域での同窓会等と連携するなど、

支部の活性化も。

C 予算の都合が許せば、公開場所を1年1箇所ではなく複数会場で行ったらどうか。

D 県費生システムの紹介が有益と考える。

E 実施後の報告的資料の展示などがあればよい。

F 人数があまり多いと困るが、一般客からの質問を集め（学者のみならず）次の展示会、講演会の味付けに使うことも必要か。

G 日程が決定したら早めに、広く告知した方がよい。大学、同窓会のホームページへの掲載や同窓会報への掲載も必要である。

結果についても、効果や反響を含めての報告の偏よりをなくした方がよい。同窓生への、同窓会報を通しての報告も必要にして重要である。

H 展示の数を更に増やしたい。

【Ⅲ】書院卒業生寄贈図書・支那雑誌などのデータベース化

<評価できる点>

A デジタル化時代にはデータベースが大きな力を発揮するし、それがまた大学の貴重な知的財産になる。今後、国際化、グローバル化が進むなかで、インターネットを通じてデジタル資料・情報の交換が国際交流の柱の一つになると思われる。

B データベース化で端末から貴重情報にふれる機会を作れた点、パソコンを使って多くの人に見せることができた点がよい。

C (1) 膨大な資料を短時間で検索できる点がよい。
(2) 資料の保存という意味ではPDF化することにより現物は収蔵され、安全に保管される点とPDFからもコピーをできる点がよい。

D このデータベースが真に意義を発揮するためには、それを活用した研究がぜひとも必要。大学院での研究や卒論でテーマを見つけ出して新たな中国研究、日中関係史に活かしてほしい。じっくり読めば非常に発見の多い資料で

- ある。
- E データベース化事業に大いに期待する。
- F たいへんたくさんの図書類のデータベース化という多大な努力を必要とする仕事が成されており、研究のための環境を整える姿勢、熱意には敬服した。
- G よく出来ている。
- H 書院の卒業生は日中関係の実業面で活躍した方が多く、又、大変な勉強家揃いである。その方たちの蔵書や資料は貴重なものである。これらを収集してデータベース化する事は、一般研究者に貴重な資料の閲覧を可能として、利便性を与える事であり、大変有意義である。これからも多くの資料を收拾して活用できる様にしてほしい。
- I あちらこちらの図書館では、本の紙がいたみ見せてもらうのも気がひけるような本（たかだか50年前位）が多くみられるが、書院関係の本など世界でもめずらしい書籍はデータベース化する事で多くの学者や学生達の役に立つと考えられる。大変な仕事だが、今でないと出来ない事なので従事されている方々には頭が下がる。
本当に良い時にデータベース化ができた。チャンスをうまくつかんだと評価したい。
- J (1) 東亜同文書院の建学の精神を明らかにし、日中提携の人材を養成する目的で創設された事を実証したことがよい。
(2) 在学中の中国旅行誌から書院生と中国の老百姓との友好関係、中国大陸、中国人に対する愛情が鮮明に記録されていることがよい。
(3) 山田良政・純三郎と孫文との交流を明らかにし、山田兄弟の中国革命への貢献を顕証したことがよい。また、青森の山田家の現状を確認できた点がよい。
(4) 書院から愛大への歴史、本間喜一学長の功績が実証された。将来更に顕賞されるべきであらう。
- K 書院卒業生からの図書提供は、書院生の愛大への想いと希少価値図書としての二面から有効である。これらのデータベース化は研究者にとっては待望の資料となろう。
- L 記念センターの図書・雑誌などのデータベース化は、まだ個々の所蔵情報を入力している段階であり、まだ詳細な目録等を公表することは不可能である。但し、図書館関係の「支那経済全書」、「支那省別全誌」、「新修支那省別全誌」は作成されており、また「支那」、「支那研究」、「東亜研究」の3誌はデータベース化されていて、利用価値は大きくなった。
- <改善が必要と思われる点>
- A 大変手間暇のかかる作業なので、とても忍耐と努力のいる作業である。今後寄贈図書・資料をベースに同文書院記念書庫を作ったらよい。
- B 外部に周知して利用してもらう。
- C どの位の人が利用するのかという点に関して費用対効果について研究の余地あり。
- D 研究として取り組む若い人の出現には地道な研究会を願いたい。
- E インターネットの無料公開を期待したい。
- F (1) 書院建学の精神は帝国主義的侵略の目的ではなかった事が明白になりつつあり、これをさらに推進する。
(2) グローバルに書院から愛大精神の宣伝をする。実現を計る。
- G 寄贈提供された図書目録の活字化をされたら、その中から活用したい資料もあるのではと思われる。
重複している図書資料は、霞山会や大倉精神文化研究所へ寄贈されたら有効に生かされよう。ただし、書院大学史に関するもの、その他書院の学績に関する図書資料を対象とします。大倉精神文化研究所の書院関係資料の目録もありますが収蔵は微々たるものである。
- H 今後、本格的に図書・雑誌などのデータベース化を進める必要がある。

また 2011 年以降のランニングコストを手当する必要がある。

【Ⅳ】活動研究成果年報・大学史研究報・ブックレット・ニュースレター等の出版

＜評価できる点＞

- A これは特に高く評価してしかるべき事業である。オープン・リサーチ・センターに選定されてから、同文書院関連の出版物・講演録・各種研究論文および報道系が格段に増えたことは特筆すべきことである。古い資料・情報の発掘とともに、これらのオリジナルな研究成果は貴重な知的財産になる。
- B 論文、ニューストピックス、写真中心の解説などそれぞれ特長のある出版誌として良いものになっている。
- C 広く一般に活動成果やお知らせ等が PR できるようになったことがよい。
- D 系統的かつ多面的な研究会シンポジウムの開催、年報、大学史研究など出版活動、感銘を受けている。
- E 年報、ブックレット、大学史研究はおのずと読み手の範囲が違い、これだけ積極的に刊行されるのは驚きであると共に後々に活かすのに違いないと続刊を楽しみにしたい。
- F (1) 交通大学との共同研究結果の紹介は史実を基礎としたもので非常に成果があった。
(2) 書院創立から戦争発生時までの「原型期」(1901～1937.8)と戦時の「変容期」(1938～1945)を分けて考えたい。その点で原型期の分析(書院一般・大旅行)が見られるは評価できる。
(オープン・リサーチ・センター年報 2006 年版 p.7～「華語萃編～」)
(オープン・リサーチ・センター年報 2006 年版 p84.85 竹内好氏の紹介)
- G 非常に綿密に記録された最新の研究発表の様子などで、一般人には専門的すぎて難解な箇所

ももちろんあるが、愛知大学の歴史のドラマチックな事、大きな事件の特異性、それに関係した人々の心情的な面名なども網羅されており、サーガ(大河小説)のごとく読ませて頂いた。

大学創設時代の不明部分についての酒井名誉教授の論文の紹介などは研究の起爆剤としての役割も担っているのではないかと感じた。

- H 出版物は丁寧に整理されて、毎年出版されているので驚いている。
- I 記念センターの研究報は、活動状況をコンパクトに伝えるものとして非常に有意義である。望むらくは発行の間隔を密にして回数を増やして頂ければ良い。
オープン・リサーチ・センター年報で、講演内容等を記録として残すことは意義深い。
愛知大学史研究は大学の歴史を伝えるだけでなく、それぞれが取り組んでいる勉学、研究の厚みを自覚させる効果も大きい。
- J 一般の人々に取ってブックレット及びニュースレターの出版は手軽に目に出来る本で、自分のみならず知人とセンターの話をする時に、自分の言葉足らずを助けてくれる最高の本である。しかも、キャッチフレーズが良く、女性のバックにも入る大きさ、うすさが良い。
- K 思考を整理し、またこの運動を発展させるための研究報、年報等は評価出来るし、今後も続けて欲しい。
- L 年報・研究報ほか何れの資料も高く評価できる。大学史や近現代史の貴重な資料になる。これらを基に研究者のさらなる積み上げが期待できる。
この様な資料を他の学部・機関でも活用して欲しい。
- M オープン・リサーチ・センター年報創刊号・第2号、愛知大学史研究創刊号・第2号、研究報創刊号、第2号、第3号及びブックレット・ニュースレター等がすべて出版実施されている。

る点がよい。

N いずれも充実した内容で、非常に読み応えを感じている。

<改善が必要と思われる点>

A これらの出版物も実は紙ベースのみならず、一定の条件のもとでインターネットやホームページ、データベースとともに公開してほしい。

B 大学史研究やセンター年報などでは実績記録としては必要な最低部数の印刷でよいと考える。それよりも広く一般に知ってもらうためのブックレットや研究報をわかりやすくして増刷したらどうか。

C なお、大島先生のお話もあって、小岩井浄先生の社会、政治思想の形成、転換の過程を跡付けた論文を執筆しています。愛知大学の創設の「建学の精神」と密接に関係していると考えている。愛知大学創設期の先生方の社会的学問的研究をテーマとした叢書の刊行を希望している。

D 流通（配布）の仕方にもうひと工夫が必要。また地元豊橋ないし県内への有効な働きかけを若い力と結んでできないか。同種の問題は何処でもかかえて悩んでいることではある。

E 変容期をことさらに取り上げる（愛知大学史研究 2008 年版）のは、(1) 戦時の変容は内地大学同様一般的なことであった。(2) ことさらに特殊な事例をとりあげている感がある。(35 期生の「大旅行は真の大旅行ではなかった。軍の委託があったから」とか、靖亜神社の齋事を神職が行なったとか。キャンパスが兵舎化したとか—これは戦地に置かれた学校としてむしろ被害を受けたものである。) ことから望ましくない。原型期の書院と対比させるのが望ましい。

F もう少し図版や写真、カラーが組み込まれると、より読みやすくなるのではないか。

G 本のページ全部が文字だけでなくやはり視覚

から画や写真が随時はいる事が必要だと思う。ただし、現在の型を変える必要はない。

H 既刊の論文内容については、何れも評価できる。これらの資料を基に公論を経て、更に論旨の発展を誘導して欲しい。

また、テーマ毎に、分野毎にシンポジウムなどを企画してほしい。

I 今後、研究の余地ある点に着手してほしい。

【V】地域広報としての友の会

<評価できる点>

A 友の会として第一歩をはじめた点がよい。地域の文化施設との協力体制もよい。

B 大学を広く情報発信できるという観点からは友の会設立は意味のあることである。

C 愛知大学が豊橋に本拠をおく意義を保証してゆくのは、このような活動の広がりによるものと思う。笹島の「トビ地」が生きるか枯れるかも根と葉・花の関係をうまく構築できるかにかかっていると思います。そういう点でも友の会の発想は貴重。

D 今後の活動が期待される。

E 大学創立の時に当地方の文化の発展を願った意味を考えれば、大学が出来てこの地が軍の町から文化、学問の市に変化した事は大きな仕事をなしたとげたと思う。

軍靴と号令の代りに書籍と勉学の姿は「孟子三選」の教えと同格だと思う。

F 各種催事の告知・広報、また催事結果の報告・反響など露出は評価できる。その努力を評価する。

G 記念センターに対する地域の人々の理解と行事への協力を得るために 24 の施設団体に「友の会」世話人を委嘱したものであり、文化発信の施設として地域とのつながりを強化するものである。

H 地元の栄校区に友の会の目を向けて下さったことを嬉しく思う。



<改善が必要と思われる点・要望したい点>

- A 体制がまだ不完全で、今後、より多くの人に参加してもらえるよう期待したい。
独自性があり小さな組織でもいいので地域に根付く組織がよい。
- B 24の施設・団体が世話人となっても日が経てば、有名無実化しやすいので、時々世話人会を開催する必要がある。
- C 会が頭デッカチとにならないようにやはり友の会のすみずみまで目が届くような暖かみのある友の会にしてほしいし、会員の声を大切にしたい。
- D 会員の希望されるであろう多くの情報を適宜発信し、会員や地域の知的好奇心を更に誘い、記念センターとの出会いに感謝されたいものである。
- E 今後の活躍・発展を大いに期待したい。
- F 福岡校区は大学に隣接した校区であり、栄校区の親校区で同じ南部中学校区である。福岡校区からも「友の会」の会員を選任していただく必要がある。

[V] 広報活動 その他全般

<評価できる点>

- A オープン・リサーチ・センターの認定を受けて、広報活動が本格化したことは高く評価すべきである。それにともない、国内外の訪問客、利用者が格段に増え、オープン・リサーチ・センター事業の主旨にそった展開になったと思う。
- B 新聞社等を有効に使いながらPRしているのがよい。
- C 市民トラムをはじめとする学外活動、地域とのつながりを自覚した活動全体、グローバル化がよい。
- D 書院を過去の歴史的事実としてだけでなく、学ぶべき教育方法として（現代中国学部学生の現地調査にみる如く）生かす努力は大いに評

価したい。

- E 地元新聞（東日、東愛知）では毎月のように大きな記事として、この記念センター関連のことが報じられ、また、中日新聞や朝日新聞にも時々記事として扱われているのは、他の大学ではあり得ないことで評価できる。
- F このセンター事業は所長の高度な学問への探究心が若き学者達の心を掴み、大きな力を終結した。まるで100年間に1回しか咲かない、めずらしい花が咲き誇って来たように思う。
- G オープン・リサーチ・センター整備事業として文部科学省に選定されて以来、俄然、記念センターの活躍が拡大発展してきた。
- H 私は平成9年度より豊橋市立南部中学校のボランティア教師として「郷土史」を教えており、実地見学として毎年この記念センター及び貴大学の学長公舎（在山田石塚町）を見学させていただいております。前・後期平均10名ぐらいで本年度で12年になりますのでこれまでに約250名の生徒を案内したことになります。毎年感想文を提出してもらっておりますが、大いに関心を持ってくれるようで、連れて行くのに張り合いを感じております。今後ともよろしく申し上げます。

以下中学生の感想文一部抜粋

- ◆ 愛知大学にある大学記念館はとてもすごかったです。いろいろな歴史あるものが展示されていて楽しかったです。説明は難しい言葉がたくさんあって少し理解できない所もあったけどだいたいの内容は分かったので深い話だなと思ったりもしました。
- ◆ 愛知大学の昔のことが分かったし、大学の中までみることができて、とてもうれしかったです。愛知大学はかなり昔からあるということが分かり、すごいと思いました。
- ◆ 愛知大学は南部中学校ともものすごく近くていつも見たりしているのに、そんなところで日本的にも有名なことがおこったり、すごく

活躍した人がいたりとおどろきばかりだった。(略) とくにすごいと思ったのが孫文を支援したことです。孫文は社会の授業でも習った本当に有名な人で、そんな人を支援していたんだから本当にすごいなあと思いました。

- ◆ 愛知大学の展示のところに行った時などは、本間という人は初めて知ったけれど、こんなに偉大な人物だったんだということを知って歴史が楽しくなりました。(略) 今は何でもかんでも建物を建てようという中でまだこうして昔のものが残っていたりするととてもうれしいし、親近感がわきます。

<改善が必要と思われる点・要望したい点>

- A 多部署にわたって参加できる体制を望みたい。それには一般OBなど協力者(=友の会)などをもっと活用していくことである。
- B 学生や教職員など学内のPRについても積極的に行なってほしい。
- C 市民トラムをはじめとする学外活動で、トラムはなくとも諸都市(岡崎・豊田・名古屋ほか)でも企画できないか。
- D 今日インターネットの時代であるから、発行

された個々の資料の記録性を高めると同時に、研究報や年報等が発刊された折には、その内容などにも触れて愛大のホームページ等で広く知らせる事が良いのではないか。

- E 日本近代史の中で若い人々があやふやな歴史観を持って終わりとしないように、ぜひ近郊の中高生にも押し付けでなく、勉強の一端として見せてあげたい。また、外国の人々に見せたい。
- F 各種の催事または成果資料などは、地域に限らず広く関心・関係ある機関への配布を希望したい。順次つくられた情報網は研究者の育成、シンポジウムへの相互参加に繋がり、国内外を問わず、同文書院実績の検証・顕彰は当該学問分野の発展にも貢献しよう。東亜同文書院大学記念基金会の運営・活動にも積極的な参加・参画を期待したい。表彰のみの活動に留まらず、書院の学績顕彰や書院の分野の研究に必要とされるなら、基金からの支出も歓迎・評価されよう。
- G この勢いを今後持続したい。